

# 平成26年度 中部森林管理局の重点取組

国有林野事業が一般会計化して2年目を迎える中、「公益重視の管理経営の一層の推進」、「森林・林業再生への貢献」、「山村地域の振興と森林の総合利用」の3つの柱の下、以下の事項に重点的に取り組めます。

## 1 公益重視の管理経営の一層の推進

### 木曽地方の温帯性針葉樹林の取扱いの検討

●天然ヒノキ、サワラ等から成る木曽地方の温帯性針葉樹林は、自然度の高い状態でまとまっていて非常に貴重なものとなっています。今年度は、昨年度に学識経験者等による検討委員会がとりまとめた報告書に基づき、管理委員会を設置し、基本計画の策定等具体的な取組について検討を行います。

※ここでいう木曽地方とは、長野県内の木曽谷及び岐阜県内裏木曽です。



温帯性針葉樹の保存・復元に向けた取組地域

### ニホンジカ被害対策の充実

●高山植物の保護や生息調査、被害状況調査、捕獲等を進めてきており、引き続き地域や機関との連携を強化しながら、防護柵による保護やくくり罠による捕獲に取り組むほか、食肉利用も踏まえた効果的な捕獲方法の検討を行い、その成果を地域関係者に普及します。また、新たに北アルプス地域、岐阜県加茂郡七宗地域で取組を開始します。



自動カメラで撮影されたニホンジカ(北アルプス)

### 山地防災力の強化

●災害に強い健全な森林づくりを進めるとともに、緑の国土強靱化対策として、集中豪雨等で被災した荒廃山地を復旧整備するための治山事業を推進します。工事の実施に当たっては生物多様性への配慮や木材利用の推進に努めます。



平成26年9月で30年を迎える長野県西部地震災害の復旧状況

## 2 森林・林業再生への貢献

### 森林資源の若返りの推進

●地球温暖化対策として、政府では2020年度に森林吸収量2.8%（2005年度の温室効果ガス排出量比）を確保する目標を立てており、間伐の実施を促進するとともに、人工林の高齢級化に伴う吸収量の低下や、資源の成熟に伴う主伐面積の増加が見込まれる中で、将来にわたる森林の吸収作用の保全・強化を図る観点から、伐採と再造林により森林資源の若返りを図ります。



コンテナ苗

### 木材需要の拡大

●木材の安定供給に努めるとともに、森林土木工事等において地域材等を使用した型枠合板や木造の現場事務所等の利用の拡大に取り組むほか、木材利用に係る関係機関との連絡会議の開催や都市部への働きかけ等により木材の需要拡大に取り組めます。



地域材等を利用したコンクリート型枠合板

### 民国連携による林業再生の推進

●民有林との森林整備推進協定等を基に、国有林の中間土場の活用による流通経費の低減、民有林と一体となった木材のシステム販売等を実施するほか、林業事業体の育成や木材の需給調整の観点からの民国の事業情報の提供、現地研修による人材の育成等に取り組めます。



中間土場のイメージ(高山市一色・山中山)

### 教育研究機関と連携した技術開発等の推進

●管内の大学や試験研究機関等と連携し、技術開発や試験研究のためのフィールド提供や、協働による実証試験、研修等の実施により、民有林も含めた地域林業・林産業の課題への対応や人材育成等の取組を推進します。



外構木製構造物の劣化調査  
(長野県林業総合センター)

### 3 山村地域の振興と森林の総合利用

#### 地域の伝統文化継承に向けた国有林の活用

●諏訪大社への御柱用材を継続的に確保するための「御柱の森」を育成する取組や、「檜皮の森」として檜皮と原皮師の技術の伝承を図るなど、地域の伝統文化や伝統工芸の継承を図るための国有林の活用を、地域の関係者と連携して推進します。



檜皮の採取



御柱後継樹の植樹

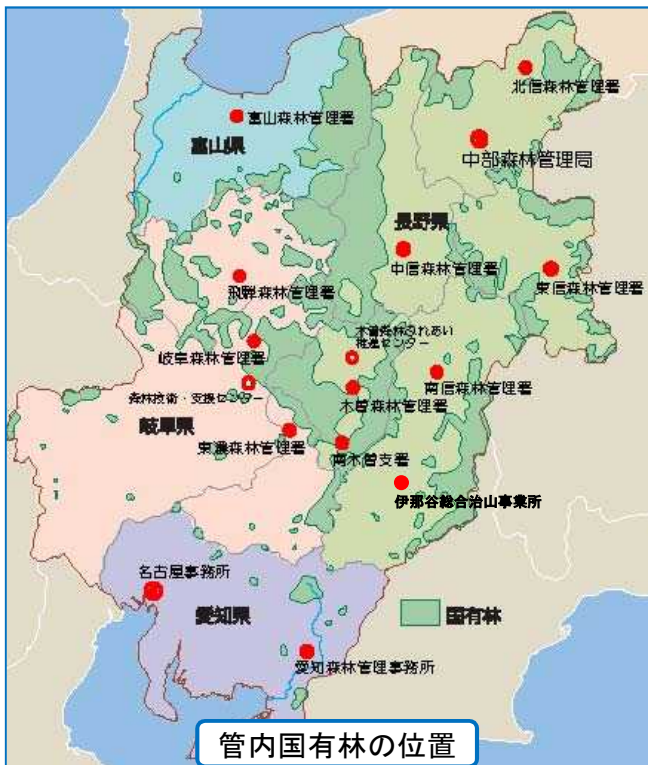
#### レクリエーションの森等の活性化

●地域の観光資源であるレクリエーションの森等をより多くの方に利用していただくため、地域の学生・生徒による歩道等の整備や利用者アンケート等を踏まえた取組を推進するとともに、地域と一体となった情報発信やPR活動に取り組みます。



地元小学生による丸太椅子の設置

#### 中部森林管理局の概要



中部森林管理局は、富山県、長野県、岐阜県、愛知県の森林の約3割を占める約66万haの国有林を管理しています。

国有林は都市近郊から「日本の屋根」と言われる日本アルプスの山岳地帯まで分布し、その多くは地形が急峻な脊梁山脈や重要な水源地に多くまとまっており、保健休養の場や豊かな野生動植物の生息地として学術的にも重要な森林も多く含まれています。

さらに、利用期に達しつつある人工林からの木材の供給や歴史的・文化的建造物への材料の提供など管内の国有林は多様な役割を担っています。

(お問い合わせ先)

〒380-8575 長野県長野市大字栗田715-5

中部森林管理局総務課

TEL 050-3160-6513

FAX 026-236-2733

URL <http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>

# 平成26年度 事業概要

公益重視の管理経営と、森林・林業の再生に向けた各種取組を推進します



中部森林管理局

平成26年5月

問合わせ先: 中部森林管理局 総務課 広報

TEL 050-3160-6513 FAX 026-236-2733

URL <http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>

# 目次

中部森林管理局管内の国有林の特徴	1
平成26年度中部森林管理局管内の取組	2
1. 公益重視の管理経営の一層の推進	3
① 計画的な森林整備の推進	3
② 山地防災力の強化	4
③ 生物多様性の保全の推進	5
④ 双方向の情報受発信	7
2. 森林・林業再生に向けた貢献	7
① 森林資源の若返りの推進	7
② 人材の育成・市町村支援	8
③ 林産物の安定供給	8
④ 木材需要の拡大	9
⑤ 民国連携による林業再生の推進	9
⑥ 技術開発	10
3. 山村地域の振興と森林の総合利用	10
① 森林とのふれあいの場の提供	10
② 森林づくり活動へのフィールド提供	11
③ 地域の伝統文化継承への貢献	11
4. 参考資料	12

- ・ 各計画区の伐採量の計画・人工林天然林別機能類型別面積
- ・ 保安林面積・緑の回廊面積・保護林面積・レクリエーションの森面積

# 中部森林管理局管内の国有林の特徴

- ★ 中部森林管理局は、富山県、長野県、岐阜県、愛知県の森林の約3割を占める約66万haの国有林を管理しています。
- ★ 国有林は都市近郊から「日本の屋根」と言われる日本アルプスの山岳地帯まで分布し、その多くは地形が急峻な脊梁山脈や重要な水源地に多くまとまっています。
- ★ 森林の状況は、戦後の造林地の人工林資源が成熟期を迎え、木材として利用可能な森林が増えています。
- ★ また、保健休養の場や豊かな野生動植物の生息地として学術的にも重要な森林も多く含まれています。

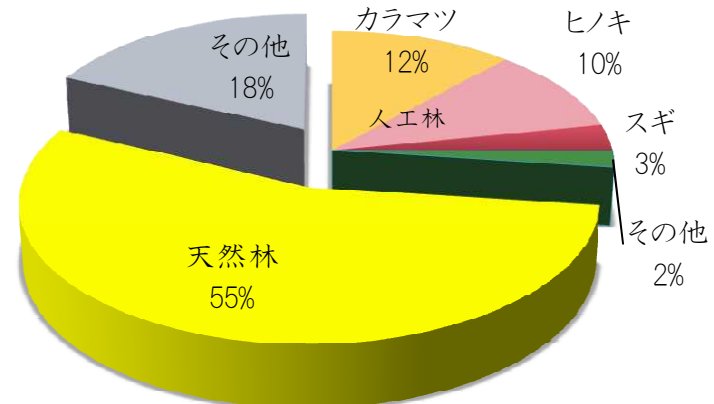
管内国有林と自然休養林の位置



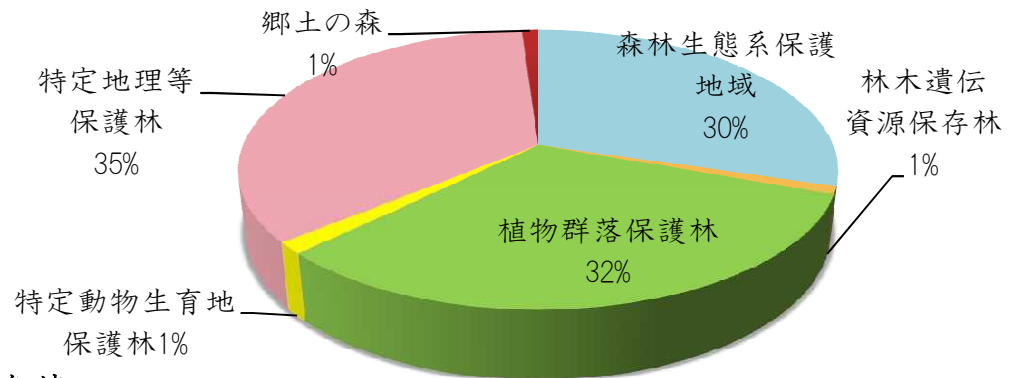
● 自然休養林(11箇所)

- ①カヤの平 ②戸隠・大峰 ③湯の丸・高峰 ④北ハヶ岳
- ⑤赤沢 ⑥木曾御岳 ⑦飛騨白山白川郷 ⑧御岳 ⑨付知峡
- ⑩定光寺 ⑪犬山・八曾

国有林野の樹種別割合(国有林野面積 654,963 ha)



保護林の設定状況 面積102,441ha



# 平成26年度中部森林管理局管内の取組

中部森林管理局管内の国有林の分布や資源状況等を踏まえ、以下に主眼を置いて管理経営を行うこととしています。

## 1. 公益重視の管理経営の一層の推進

国有林には国土の保全や地球温暖化の防止などの公益的機能の発揮が求められており、国民との双方向対話を一層行いながら、各種計画に基づいた森林整備の実施や治山事業の効率的な実施による緑の国土強靱化対策の推進、保護林や緑の回廊等の生物多様性の保全、地域と一体となった鳥獣被害対策を推進します。

## 2. 森林・林業再生に向けた貢献

我が国の森林・林業の再生に向けて、戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎える中、計画的な主伐の実施、主伐後の確実な再造林に取組むとともに、民有林と連携した施業の実施、国有林のフィールドや技術を活用した森林・林業技術者の育成や先駆的な技術・手法の事業レベルでの試行、林産物の安定供給等を通じて、民有林の経営に対する支援等に積極的に取り組みます。

## 3. 山村地域の振興と森林の総合利用

地域の伝統産業の育成等にも資する森林や茅場等の整備、地域の教育機関との連携やアンケート等を通じたレクリエーションの森の活性化をはじめ、林産物の安定供給、野生鳥獣への対策、国有林野の活用、人材育成を始めとした民有林への指導やサポート、民有林材を含めた木材の安定供給体制の構築など、山村地域の振興に寄与する取組を推進する。山村地域の社会経済に貢献するとともに、森林の保健・文化・教育的利用等の取組を進めます。

# 1. 公益重視の管理経営の一層の推進

## ① 計画的な森林整備の推進

★ 森林整備に当たっては、山地災害の防止や水源涵養機能の発揮、地球温暖化防止等の公益的機能の維持・増進を図るため、地域管理経営計画等に基づいた保育間伐等を適切に実施するとともに、複層林化、針広混交林化等多様な森林づくりを推進します。また主伐後の再造林を確実に実施します。

これらの事業実施に当たっては、分収林契約満期後の更新面積が増加してきていること等も踏まえつつ、主伐後の再造林を確実に実施するための低コストで高効率な作業システムの定着や、コンテナ苗の特徴を活かし伐採から植栽までを一貫して行う作業システムの導入等、低コスト化に資する施業技術についての検討にも取り組みます。

### 26年度 主な事業量

(単位:ha)

区分	植付	下刈り、 つる切り等	間伐
平成24年度	50	4,389	5,614
平成25年度	92	2,301	4,894
平成26年度	128	2,221	4,943

※平成26年度は当初予定(25補正含む)

※平成25年度は実績見込み、平成24年度は実績



間伐前



間伐後



植付



下刈り



つる切り



除伐



## ② 山地防災力の強化

### 治山事業の着実な推進

★ 安全・安心で災害に強い森林づくりのため効果的・効率的な治山対策や、集中豪雨等により被災した緊急性の高い崩壊地等の山地災害復旧対策を25年度補正予算及び26年度予算により着実に進めるとともに、保安林の整備等による緑の国土強靱化対策を推進します。

また、事業実施に当っては、生物多様性への配慮や木材利用の推進に努めるとともに、地域の特性に応じた治山事業の検討を進めます。

### 26年度 主な事業量

区分	溪間工(基)	護岸工(m)	山腹工(ha)
平成24年度	106	373	59
平成25年度	164	537	126
平成26年度	104	443	78

※平成26年度は当初予定(25補正含む)  
 ※平成25年度は実績見込み、平成24年度は実績



木製校倉式土留工  
(愛知所)



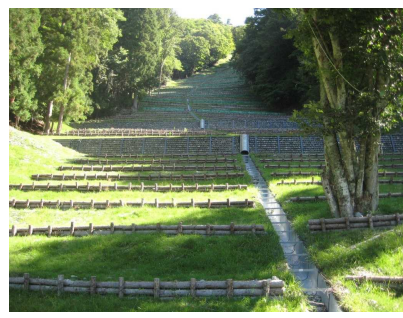
木製治山ダム  
(南信署)

### 民有林直轄治山事業の実施

★ 民有林において、災害復旧事業の規模が大きい場合や特に高度な技術を必要とする場合は、県からの要請に応じて国が直轄で治山事業を実施します。

### 災害発生時の迅速な状況把握・復旧対策の実施

★ 大規模災害発生時等は、民有林とも連携して、ヘリコプターの活用等による、調査や応急対策、復旧計画の策定、復旧事業の実施など迅速に対応します。



長野県 小渋川地区  
(伊那谷総合治山事業所)



富山県 常願寺川地区  
(富山署)



国道158号線の雪崩ヘリコプター調査のための長野県・松本市との打合せ(中信署)



国道256号線の土砂災害  
(南木曾支署)

### ③ 生物多様性の保全の推進

#### 高山植物等保護の実施

- ★ 人々の多く訪れる乗鞍岳や立山などにおいて、グリーン・サポート・スタッフ(GSS)等による巡視やマナーの啓発活動を行い、貴重な森林生態系の保全管理に取り組みます。
- ★ 山火事や高山植物の盗採掘、廃棄物の不法投棄等の未然防止のため森林官等による国有林野巡視を行います。



登山道の整備  
(東濃署)



高山植物保護パトロール  
(中信署)

#### 保護林のモニタリング

- ★ 国有林では、原生的な天然林や希少な動植物の生息・生育地等を対象に保護林を設定しており、モニタリングは、保護林の現状を的確に把握し、保護林の設定目的に照らして保護林を評価することを目的として、地域管理経営計画樹立の前々年度にあたる森林計画区において、森林や高山植生、動物、利用動態等に関する現地調査を行います。

また、学術的見識を有する者から成る検討委員会を構成し、現地検討及び検討委員会を開催することで、保護林の設定目的に照らして評価を受けます。

#### 自然再生事業の実施

- ★ 木曾駒ヶ岳や雲ノ平における高山植物の復元活動をNPOやボランティア等と連携して実施します。



木曾駒ヶ岳における植生復元作業(木曾森林ふれあい推進センター)

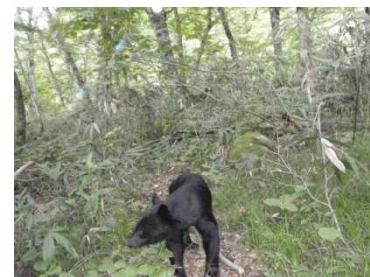


センサーカメラの取付



センサーカメラ

センサーカメラ  
により撮影された  
ツキノワグマ



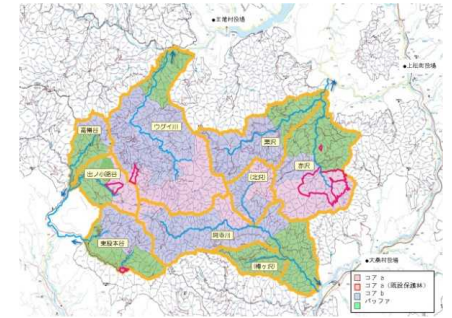
# 木曽地方の温帯性針葉樹林の取扱いの検討

★ 天然ヒノキ、サワラ等から成る木曽地方の温帯性針葉樹林は、古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たしてきました。一方、温帯性針葉樹林がまとまって自然度の高い状態を構成している木曽地方の針葉樹林は現在では非常に貴重なものとなっています。

このため、木曽地方の温帯性針葉樹林の貴重性や地域振興に果たしてきたことを踏まえ、昨年度、有識者等により区域や森林の取扱い方針等が取りまとめられました。

今後は、この取りまとめに基づき管理委員会を設置し、基本計画の策定等具体的な取組等について検討します。

温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組を行う区域及ゾーニング



検討委員会(H25)



温帯性針葉樹林がまとまって成林する取組区域

## ニホンジカ被害対策



聖岳での防護柵の設置 (南信署)



ニホンジカ被害 (東信署)

★ 地方自治体や学識経験者、NPO等と連携しながら、地域連携推進等対策事業(野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備)として、浅間、美ヶ原、霧ヶ峰、ハヶ岳、南アルプス、北アルプス、七宗の地域を設定し、生息状況の調査や防護柵の設置、個体数調整等の取組を行います。

個体数の調整は職員による捕獲、猟友会への委託、くりワナの貸出、囲いワナによる捕獲(食肉利用を含む)等により行っています。

## ④ 双方向の情報発信

- ★ 国有林モニターによる現地見学会・モニター会議やホームページ等を通じて多くの情報の受発信を行い、より透明性の高い国有林野の管理経営を進めます。
- ★ 森林計画の策定に当たり、国有林の森林資源や整備状況、利活用等に関する情報を広く提供するとともに、地域の方々との懇談会や現地見学会の開催、ホームページ等による意見募集を実施し、地域に根ざした幅広い情報や要請を森林計画に反映させるよう取り組みます。



モニター現地見学会  
(宮・庄川森林計画区・飛騨署)



地域住民との懇談会  
(千曲川下流森林計画区・北信署)



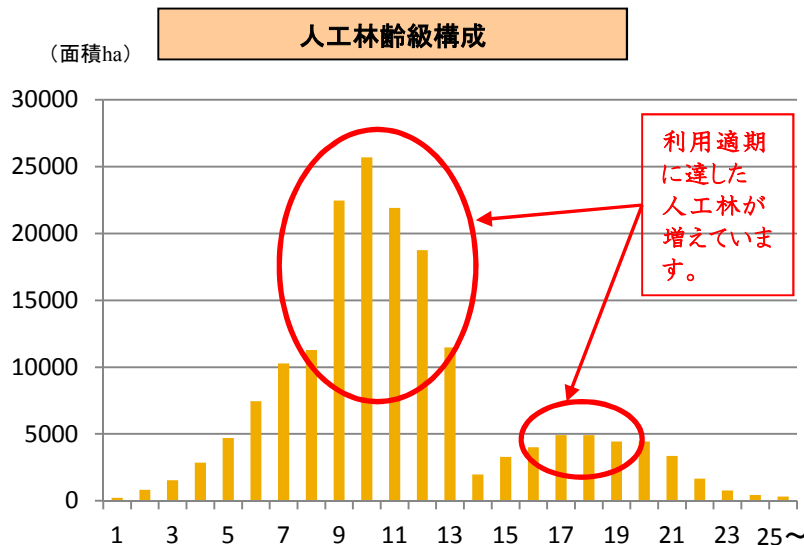
地域住民への庁舎開放  
(夏休み子どもふれあいデー・局)

## 2. 森林・林業再生に向けた貢献

### ① 森林資源の若返りの推進

- ★ 地球温暖化対策として、政府では2020年度に森林吸収量2.8% (2005年度の温室効果ガス排出量比)を確保する目標を立てており、引き続き間伐の実施を促進するとともに、将来にわたる吸収量の確保を図る観点から、吸収量の低下した高齢級人工林の若返り及び齡級構成の平準化を図って行くことが必要です。

これらのことから、利用が可能となる林分について、計画的な主伐の実施、主伐後の再生林による確実な更新を通じ、森林資源の若返りを図ります。



※齡級とは林齢を5年毎にくったもので、1齡級は1～5年生を表す。

## ② 人材の育成・市町村支援

★ 国有林のフィールドや技術力を活用し、森林・林業行政を支援できる森林総合監理士(フォレスター)を育成するための研修やフォレスター活動に必要な知識・技術を補強するための実践研修を実施します。

また、大学等と連携し、将来の森林・林業技術者の育成に向けた取組も実施します。

★ さらに准フォレスターと位置づけられた国有林職員が県の准フォレスター等と連携を図りつつ国有林の有する技術的な知見・情報を提供するなど、市町村森林整備計画の策定等に係る民有林支援に取り組みます。



森林作業道現地研修  
(森林技術・支援センター)



市町村森林整備計画説明会  
(富山署)

## ③ 林産物の安定供給

★ 成熟期を迎えた森林の公益的機能の発揮と森林・林業の再生を図るため、主伐や森林整備における間伐の結果得られる木材を林道等の路網を活用して低コストで生産・販売し、木材の安定供給に努めます。

### 26年度 主な事業量

(単位:千m3)

区分	伐採量			販売量	
	主伐	間伐	計	素材	立木販売
平成24年度	63	550	613	204	22
平成25年度	53	480	533	209	8
平成26年度	194	504	698	222	24

※平成26年度は当初予定(25補正含む)

※平成25年度は実績見込み、平成24年度は実績

### システム販売

区分	協定件数	数量(m3)
平成24年度	21	143,504
平成25年度	23	137,398
平成26年度	21	140,180

※平成26年度は当初予定

※平成24,25年度は実績



ハーベスタ伐採(北信署)



林業専用道作設(岐阜署)

### 計画的な路網整備の実施

(単位:km)

区分	林業専用道
平成24年度	23.6
平成25年度	34.1
平成26年度	15.3

※平成26年度は当初予定(25補正含む)

※平成25年度は実績見込み、平成24年度は実績

(単位:km)

区分	森林作業道
平成24年度	274
平成25年度	285
平成26年度	334

※平成26年度は当初予定(25補正含む)

※平成25年度は実績見込み、平成24年度は実績

## ④ 木材需要の拡大

★ 木材需要の一層の拡大を図るため、需要情報を的確に把握し、需要に即した木材を安定的に供給します。(システム販売の推進) また、高齢級人工林ヒノキのブランド化をさらに進める取り組みを実施します。

さらに、土木工事を含む公共工事等の工事資材や工事現場の囲い、現場事務所等の仮設資材への地域材の使用を拡大していきます。



高年齢級人工林ヒノキのブランド化  
(木曾署・南木曾支署)



人工林カラマツ小径木の供給(東信署)



現場事務所(飛騨署)



地域材等を使用したコンクリート型枠合板  
(中信署)

## ⑤ 民国連携による林業再生の推進

★ 民有林と国有林が連携して間伐等の森林整備や作業路網の整備に取り組み、林業の生産性の向上や林業事業体の育成・強化、木材の協調出荷、安定供給等の着実な推進を図り、森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させるとともに、林業・木材産業の活性化に資することを目的に「森林整備推進協定」を締結し森林施業の集約化に取り組みます。

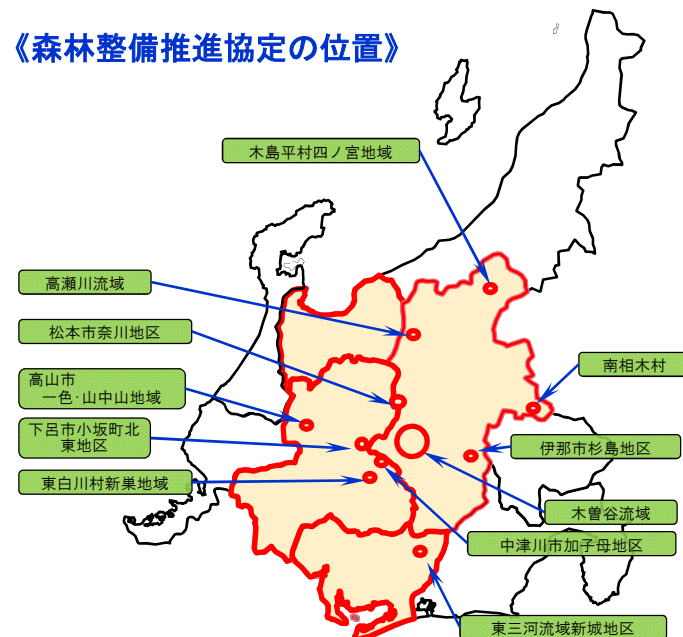


下呂市小坂町北東地区森林整備協定(岐阜署)



高山市一色・山中 中間土場(飛騨署)

### 《森林整備推進協定の位置》



## ⑥ 技術開発

★ 民有林の経営や森林の整備・保全に関する技術・手法の普及を念頭に、低コスト造林手法としての伐採造林一貫作業による低コスト化などを実証・実践による技術開発に取り組みます。

これらについて、民有林と国有林の連携を一層推進するため、大学や研究機関と連携して取り組みます。



コンテナ苗



コンテナ苗の植栽

### 平成26年度に取り組む主な技術開発課題

技 術 開 発 課 題	取 組 署 等
ヒノキ、ナラ、ホオノキの混交植栽試験	岐 阜 署
植生マットを用いた天然下種更新	東 濃 署
湿性ポドゾル地帯の更新法～三浦・助六実験林～	木 曾 署
伐採・造林の一貫作業システムの導入による低コスト造林の確立	北信署・東信署 愛知所
点状複層林の上木伐採試験	岐阜署・東信署
列状間伐地の2回目間伐手法について	東信署・南信署
ヒノキコンテナ苗による低コスト再造林のための植栽・初期保育技術の開発	岐 阜 署
伐造一貫作業システムによる低コスト化とバイオマス利用の推進	南木曾支署

## 3.山村地域の振興と森林の総合利用

### ① 森林とのふれあいの場の提供

★ 国民の保健、文化、教育の利用に資する自然休養林等のレクリエーションの森をより多くの方々に利用していただくためのPR活動等、地域の振興に寄与するための取組を地元関係者と連携しながら実施します。



木曾青峰高校から城山国有林で活動する城山史跡の森倶楽部に木製ベンチの寄贈  
(木曾署・木曾森林ふれあい推進センター)



飛騨白山白川郷自然休養林  
(飛騨署)

★ 国有林に所在する、森林散策路等を観光資源として活用するため、地域と一体となったPR活動に取り組みます。



森林散策マップ(東濃署)  
アライダシ自然観察教育林

## ② 森林づくり活動へのフィールド提供

★ 『国民参加の森林づくり』の活動を支援するため、「ふれあいの森」、「遊々の森」や「社会貢献の森」などの活動への技術支援や新たなフィールド提供、各種団体等へ情報提供などのPR活動を市町村等と連携を図りつつ取り組みます。



社会貢献の森「風とせせらぎの森林」での竹の除去作業(富山署)



ふれあいの森「中日森友隊の森」で会員等による森林整備(愛知所)



赤沼田天保林でのボランティア作業(岐阜署)



遊々の森「どすこい山」植樹作業(中信署)

## ③ 地域の伝統文化継承への貢献

★ 地域の伝統行事や文化の継承等に貢献するための活動への技術支援等を行うとともに新たなフィールドの提供などに向け、市町村等への情報提供などのPR活動に取り組みます。



御柱の森(南信署)



檜皮の森(南木曾支署)



伝統的工芸品・一位一刀彫に必要なイチイ人工林現地調査(飛騨署)



# 4. 参考資料

## 各計画区の伐採量の計画

H26.4.1

計画区	関係署	計画期間	伐採量(m3)			人工造林(ha)	間伐面積(ha)	計画区	関係署	計画期間	伐採量(m3)			人工造林(ha)	間伐面積(ha)	
			主伐	間伐							主伐	間伐				
神通川 庄川	富山	H24.4.1～H29.3.31	19,600	0	15,342	0	157	宮・庄川	飛騨	H22.4.1～H27.3.31	574,350	38,752	455,829	53	6,964	
	富山	H26.4.1～H31.3.31	3,500	0	2,741	0	24				飛騨川	岐阜	H24.4.1～H29.3.31	208,000	90,402	104,877
千曲川下流	北信	H22.4.1～H27.3.31	221,760	6,074	188,458	484	2,276	長良川	岐阜	H23.4.1～H28.3.31				18,500	4,900	11,527
中部山岳	中信	H23.4.1～H28.3.31	264,000	13,281	225,729	26	2,647				揖斐川	岐阜	H26.4.1～H31.3.31	12,500	8,482	2,755
千曲川上流	東信	H26.4.1～H31.3.31	700,000	138,258	466,387	484	6,868	木曾川	東濃	H25.4.1～H30.3.31				180,000	66,634	98,985
伊那谷	南信	H25.4.1～H30.3.31	260,000	14,496	223,433	28	2,356				尾張西三河	愛知	H23.4.1～H28.3.31	27,280	6,227	17,363
木曾谷	木曾	H24.4.1～H29.3.31	413,558	47,362	366,196	62	4,328	東三河	愛知	H25.4.1～H30.3.31				132,300	58,757	59,276
	南木曾	H24.4.1～H29.3.31	293,514	44,866	248,648	68	2,375				計	3,365,790	455,491	2,487,546	1,537	33,281
伐採量の年平均は、従来の年平均に当該変更計画による伐採量の増減量を残期間(数年)で除したものを加えて算出。											年平均	702,007	107,695	497,024	307	6,656

### ○人工林天然林別機能類型別面積

単位:千ha

機能類型区分		合計							
		人工林		天然林		その他		計	
		率	率	率	率	率	率		
山地災害 防止タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	45	26%	178	49%	24	20%	247	38%
	気象害防備エリア	2	1%	13	4%	2	2%	17	3%
	計	46	26%	192	53%	25	21%	263	40%
自然維持タイプ		1	1%	107	29%	80	68%	188	29%
森林空間利用タイプ		12	7%	22	6%	5	4%	39	6%
水源涵養タイプ		115	66%	42	12%	7	6%	164	25%
合計		174	100%	363	100%	118	100%	655	100%

※平成26年3月31日現在 森林調査簿データによる  
 ※その他とは高山帯、林道数等の面積である。  
 ※項目ごと単位以下四捨五入のため計が一致しない場合がある。

### ○保安林面積 単位:千ha

区分	面積
保安林	637

※平成26年3月31日現在保安林台帳面積による  
 ※官行造林面積を含む

### ○保護林面積 単位:千ha

区分	箇所数	面積
保護林	141	102

※平成26年3月31日現在 森林調査簿データによる

### ○緑の回廊面積 単位:千ha

名称(箇所名)	面積
越美山地	7
白山山系	24
雨節・戸隠	4
ハヶ岳	6
合計	40

※平成26年3月31日現在 森林調査簿データによる  
 ※項目ごと単位以下四捨五入のため計が一致しない

### ○レクリエーションの森面積 単位:千ha

区分	箇所数	面積
自然休養林	11	16.0
自然観察教育林	20	4.6
風景林	43	9.0
森林スポーツ林	7	0.3
野外スポーツ地域	20	3.4
風致探勝林	32	4.0
合計	133	37.4

※平成26年4月1日現在  
 ※レクリエーションの森施設数(単独施設)は含まない。